



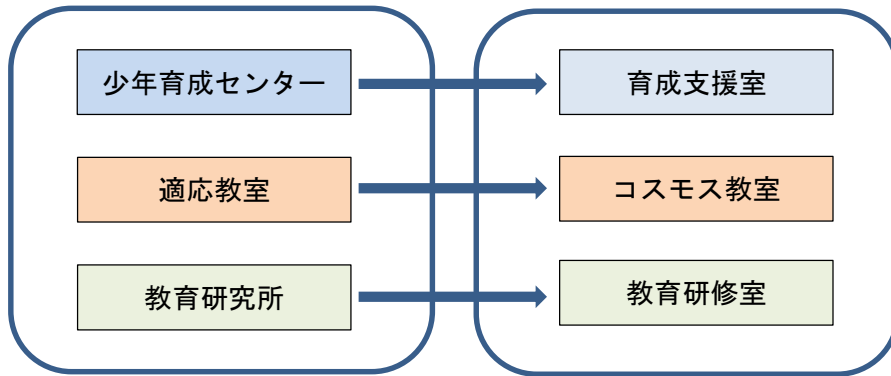
# ぐんぐんすくすく！相生っ子！

住所 相生市緑ヶ丘4丁目5-5

電話 0791-23-5070 FAX 0791-22-7211

E-mail ikusei-aioi@bz03.plala.or.jp

## ◆教育委員会内の組織を一部改編しました。



相生市教育委員会子ども学習センター内の3つの部署の名称を左記のように改めると共に、総じて、

### 『相生市教育支援センター』

とします。また、「相生市学校サポートチーム」を設置し、学校における教職員の急激な世代交代に対応できるように学校等への多面的な支援を行っていきます。

## 東井義雄 いのちの言葉 <4月> ~『東井義雄一日一言』(致知出版社)より~

### 学校

学校は、できない子をできるようにしてやる場所です。わからないという子どもをわかるようにしてやる場所です。わからない子のために、学校があり、先生があるのです。

### 教師の仕事

子どもに層はないしかしうっかりしていると層になってしまう教師の仕事はきびしい子どもへの深い愛と信英知それらを行動化する実践力を磨き続けなければこの仕事はできない

逆の考えを持つ子ども教師の目指すものと、全く逆の考えを持つ子どもも、粗末にはならない。

### あいさつ

先生方には、せめて子どもに負けないくらい生氣のある朝のあいさつを、帰りは生氣のある明日の出会いを期待したあいさつを、お願いしたい。

### 授業の創造

授業の創造ということ、テクニクの追及ではない。教師が古い自分を切り捨て、新しい自分を生み出していく、創造的な仕事である。

### 問いを育てる

「学問」の「学」も「問」も、学ぶ側に属するので「はてな?」「なぜかな?」という「問」を育てるのが授業です。「問」を封じたり、「問」を持っている子どもを脱落させてはなりません。

### 教師の願い

教科書にあるのは素材である。それが者になるかどうかは、教師の願いがあるかどうかにかかっている。願いがぼやけていては授業にならない。

### 個の確立 ①

いくらうまい授業をやったところで、うまい発表会をやったところで、りっぱに見える運動会をやったところで、それが、「ひとり」「ひとり」の確立につながるのではない、「教育」とは言えない。

### 個の確立 ②

・僕だけじゃない  
・だれ君だってやっている。  
などと、集団をかくれみの中に、どんだん自分をだめにする若者は、集団の甘さの中で育てられたものです。「個」は「集団」の中に埋没してしまい、だめな「個」になっているのです。  
「個」が生きてこねばなりません。しかも、その「個」の中に「仲間」みんなが、いきいきと生きてくるような「個」をめざすべきでしょう。

### 実践で

教師は、勝手にいろいろなことを思ったり言ったりしておれば、いい人間ではない。また、口先でものを言って居ればいい人間ではない。実践でものをいわねばならぬ人間である。

【とおい・よしお】「いのちの教育」の探求に尽くした日本の教育者。兵庫県豊岡市但東町佐々木に生まれる。小学校教師として村を育てる教育を実践。パスタロッジ賞、平和文化賞、小砂丘忠義賞、文部省教育功労賞受賞。

# 「絶望の中で一人の少女に釘付けになった」

命をつなぐ木魂の会代表・感謝感動塾塾長

又川 俊三

## 避難所で見た希望の光

私の家族が当時住んでいたのは、岩手県の沿岸沿いにある、人口約1万5千人の大槌町です。

その日は雪が降っていてとても寒い日でした。多くの町民は丘の上の公民館に避難しました。そこには一時1200人くらい避難していました。

みんな着のみのまま。携帯電話も使えない。

家族は離れ離れで誰がどこにいるのか、生きているのかさえ分からぬ。家も会社もどうなっているのか分からない。お腹は空き、喉も渇きそして、寒い。もう絶望的な状況でした。

避難所は不安と恐怖でシーンと静まり返っていました。私が大槌小学校6年の武田友菜ちゃんと出会ったのはそんな時でした。彼女との出会いのお陰で今日の私があるといつても過言ではありません。

友菜ちゃんは避難所の公民館で、模造紙とペンを借り、友だちと一緒にポスターを作って、公民館の掲示板に貼っていました。そのポスターにはこんなことが書かれています。

「スマイル」 1年生から6年生のみなさん、元気で

すか？

津波が来て、みんなちがう場所にひなんしてから1週間が経ちました。家が無くなってしまった人もいると思うけど、みんな助け合って笑顔でがんばっていきましよう。そして、その笑顔で周りの人に元気を与えてください。今みんなにできること。

1、明るいあいさつ。2、進んで仕事を見つけないこと。3、元気に遊ぶこと。4、手洗い うがい 健康第一！  
大槌小 6年武田友菜より

作り直した人生ビジョン

「笑顔」と「元気」の文字の下にアンダーラインまで引いてありました。私はこのポスターを見て目が釘付けになりました。

後で聞いた事ですが、この時、友菜ちゃんのご両親と連絡が取れず、生きていくかどうか分からない状況だったそうです。おばあちゃんも避難が遅れて津波で亡くなっていました。

そんな状況で友菜ちゃんは周りを励まそうと、友だちを誘って、このポスターを掲示板に貼って歩いていきました。私は「これが日本人の心だ」と思いました。「今時の子どもは・・・」

なんてよく言いますが、この小学6年生の武田友菜ちゃんもちゃんと日本人の心をしつかりと受け継いでいました。

大震災の悲惨な状況の中で「今」自分にできることを精一杯やっている。こんな子どもがいるのに引退なんかできませんか。

将来この子どもたちが活躍できるように、我々大人がこの素晴らしい「日本」という国をバトンタッチしたい。そのため、まだまだできることがたくさんある。私は引退を撤回し、「生涯現役宣言」をしました。

アメリカの詩人サミュエル・ウルマン氏は「歳を重ねるだけでは人は老いない。理想を失うとき、初めて老いるのだ。青春とは心の若さである」と言っています。

友菜ちゃんのおかげで、私はもう一度人生ビジョンを作り直して、今日まで至っています。

【またがわ しゅんぞう】 1978年クラフト産業(株)を創業。個別指導専門の「明光義塾」をはじめ7つのグループの会長。「千の音色でつなぐ絆」プロジェクトによる講演会やコンサートに携わり、全国各地で震災の記憶を後世に伝える活動をしている。

(日本講演新聞 2024/3/11号 「震災に見た日本人の心」より抜粋)

あいさつができる子は伸びる。

あいさつは

「心の開き」を表す。

いつでも、どこでも、

誰とでも学び続けていこう。

こう思っている子は

先にあいさつをする。

こう思っている子の

あいさつは気持ちがいい。

こう思っている子の

あいさつは相手を元気にする。

あいさつは「心の開き」を表す。

人とのつながりに

不安を抱いている。

自分自身の成長に

自信がもてない。

そんな子は

あいさつができない。

常に受け身であり、

弱々しい声が返ってくる。

あいさつができる子は伸びる。

人は生きていく限り

常に不安と共にある。

閉じようとする心を

あいさつでこじ開ける。

常に開いて、開いて、

開き続ける。

その姿勢が

子どもたちを成長させていく。

あいさつは「心を開く」練習。